2022年8月16日

ジャフコグループ株式会社
取締役会 御中

株式会社シティインデックスイレブンス
代表取締役　福島　啓修

拝啓　時下ますますご清栄のことお慶び申し上げます。

貴社の8月15日付けリリース「株式会社シティインデックスイレブンスらによる当社株式を対象とする大規模買付行為等が行われる具体的な懸念があることに基づく当社の会社支配に関する基本方針及び当社株式の大規模買付行為等に関する対応方針の導入に関するお知らせ」（以下「本リリース」といいます。）を拝見いたしました。

弊社は、本リリースに対する弊社の考え方について近日中にプレスリリースを行う可能性がありますので、弊社と貴社との8月5日の面談（以下「本面談」といいます。）に関する事実関係における弊社らの認識①～③について、貴社においても認識に相違ないか、明日までに書面又は電子メールにてご連絡をいただきたく、お願いいたします。

なお、本面談は、豊貴会長との最初の面談ということもあり、お互いにざっくばらんに意見交換を行う場であって、ブレーンストーミング的なやり取りが行われたものであり、具体的に固まった提案等が行われた場ではなかったのにもかかわらず、会話の一部を切り取って恣意的に強調した上で、今回のような重大な決定をされたのは極めて遺憾です。

また、弊社は、現在、貴社の株価がPBR 1倍割れで推移しているのは、貴社経営陣の責任であると考えており、経営者の保身のための買収防衛策を考えるよりも株主価値の向上に真剣に取り組んでいただきたいと考えております。そもそも、貴社は無借金会社であり、保有する資産のほとんどが野村総研株式、ファンドへの出資及び現預金という換金可能資産であります。したがって、PBR 1倍割れの現状では、貴社が自己株式取得を行えば、実質的に、過去に貴社が投資してきたファンドLP出資分を、出資額よりもずっと割安な価格で購入することができる状態になっているということであり、貴社が野村総研株式を売却してでも自己株式取得を行うことは、貴社の株主価値向上に大いに資するのではないでしょうか。貴社経営陣の皆様はファンドを運営しており、フィナンシャルリテラシーにも長けていると考えておりますので、是非とも貴社が上場企業としてどのような資本政策を行うことが貴社の一番の株主価値向上に資するのか真剣に向き合っていただきたいと考えております。

記

① 本リリースに「当社株式を今後も買い増し（以下「本株式買増し」といいます。）、当社株式の 51%を取得する可能性があることを示唆されると共に」とありますが、前記のとおり、ブレーンストーミング的なやり取りの中で、現在の株主構成のもとで貴社の了解を得られれば（「ちゃんと仁義を切りますが」と申し上げています。）、51%取得することも可能であるという状況認識を申し上げたに過ぎず、前提条件抜きの「当社株式の 51%を取得する可能性があることを示唆」との表現は不正確かつ不適切ではないでしょうか。昨日お送りしたメールのとおり、弊社は現時点において貴社株式について議決権割合で 20%以上を取得する予定はありません。

② 本面談において豊貴会長は「PBR がずっと 1 倍を割れていることは本当に不満で不満で仕方がない。」とおっしゃっていました。また、弊社から貴社に対し、株価を上げることは上場企業のミッションですと申し上げたところ、豊貴会長から「おっしゃられることはその通りだと思っています。」と即答いただけました。以上については間違いないでしょうか。

③ 本面談の最後に、弊社から貴社に対し、弊社が貴社株式を買うことについて「自由だという理解でいいですか」と確認したところ、豊貴会長から「もちろんです。」と即答いただけましたが、こちらは間違いないでしょうか。

敬具